

(様式3)

## 自己評価結果票 椿(1F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
<b>1.理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の生活、文化を大切にし地域との交流を深めるため季節の祭り事など地域で行われるものに参加、お店などの利用。</p>	<p>情報の収集が乏しくこれからは積極的に地域で行われることへの参加を利用者様の個性に合わせて取り入れて生きたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念を「メディケア柏原の基本理念」の中に盛り込み、日々のケアに生かされるよう取り組んでいる。</p>	<p>学習療法等を導入して実践していく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>散歩、買い物、外出時地域の方々の協力を得て地域社会参加への機会を増やしていく。家族と外出されるときは近隣の情報を共有しながら援助している。</p>	
<b>2.地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの近隣、散歩、買い物などでは必ず挨拶を交わしたり、先に声をかける(いつもお世話になっております、ありがとうございます)。台風、雪なども近隣と協力し、環境整備に努めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>現在はボランティアの受け入れをしている。</p>	<p>介護教室を開いたり、地域の行事に参加、ボランティア、学校、保育園など付き合いを活発にしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開設後徐々に入居がありその対応、職員教育などで地域貢献、役に立つことへの取り組みはまだであるがこれから取り組んでいきたい。</p>		<p>地域のお年より、特に一人暮らしの高齢者を招きお話し、食事など日常生活の中で一緒に楽しむことを考えていきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価の意義を職員に周知しミスを探すためではなくより良いケアに向けての気づき、課題を明確にすると共に改善していくよう取り組む。</p>		<p>開設後初めての外部評価であり、評価の内容、結果を家族や職員に開示し、職員全員にサービス質の向上に取り組む動機付けを行う。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回介護保険課、民生委員、介護相談員、ホーム職員で状況報告、相談を行っている。</p>		<p>現在ご家族に参加して頂いていないがご家族に参加して頂くようにしたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>丹波市包括支援センターとの連携を図っており情報収集も行っている。</p>		<p>福祉相談員の訪問、地域ケア会議等への参加を積極的にし、ホームで介護教室などの開催をしていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員達は知識として知っているが、現在ホームで必要な利用者はいない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングなどで事業所内での虐待について話し合い、法律関連の記事、事例などを利用して学んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時契約書、方針などを説明し疑問点には十分な説明を行って、理解を得ている。</p>	<p>利用者、家族から疑問、不安が生じた場合はその都度対応している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>福祉相談員の訪問、職員は業務の中で利用者と話し合う時間をなるべくたくさん設ける。ご利用者満足度調査を実施している。</p>	<p>何気ない利用者の言葉も大事に捕らえずすぐ対応できるようにしている。問題点が生じた場合は話し合い改善、対応策を検討し回答するとともに、サービス改善につなげている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶり等定期的に又個々に合わせて報告しなければならないことはきちんと行っている。</p>	<p>月1回記録を渡し、年4回広報誌の発行、預かり金の使用状態の定期的な報告、健康状態、職員の異動等その都度報告し、アルバムに写真を残して見てもらう。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時契約書に苦情窓口を設けている、又行政の窓口なども案内して意見、不満、苦情等を自由に表せるようにしている。</p>	<p>意見、苦情、不満等の対応は速やかにするようにしている。結果を報告し、未解決のことは最後まで解決できるように取り組んでいる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者、管理者は会議、面談などで職員の意見や提案を聞く機会をも設けて、反映させようと努力している。</p>	<p>職員達がもう少し本音を話せる雰囲気になるようにミーティング、職員会議などを利用し運営上の方針や目標を確認、認識してもらおうとしているが、どれくらい浸透できているかが疑問である</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に対応できるように勤務交代、業務の調整などで勤務の調整に勤めている。</p>	<p>利用者の生活時間に合わせた時間の設定、又利用者の支援の必要度にあわせ、ローテーションを組んでいる。残業をお願いして対応するときもある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者と入職者の時期のずれのため、利用者へのダメージがないように十分配慮しているが介護人材不足が大きく影響している。		退職者と入職者の間で空白になる期間が出ないように整えていく。パートの採用によって空白を少なくする。離職を減らすため工夫をしていく。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に応じた、段階的な研修を受講できる体制が成されている。		法人内交流研修を始めとして様々な機会を利用し研修に参加している。報告会を開きフィードバックしている。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と広報誌等の送付、他施設からの実習生の受け入れの要請がある場合は受け入れるように対応している。		他事業所と職員同士で相談、意見交換などができるようにつき1回集まる機会を設け、お互いの学び場として活用していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談、月1回の業務報告書、仕事の様子を見ながら対応している。		仕事のきつさ、難しさで悩んでいる様子のあるときは経験がある、ないに関わらず、グループホームのケアに付いて話し合ったり、私生活の様子も日常の会話の中から得られる情報であるが解決できることは実行している。個々のストレス解消の方策となっているのか評価が難しい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりチャレンジシートを作成して3ヶ月ごと自己評価をしている。目標の達成に向けて必要なときは適当な助言もしている。		普段仕事の中でも努力、実績があればその都度評価、励まし、悩んでいるときは話し合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談、入居申し込み書、面談のとき本人の要望、不安などなるべく細心に聞き入れ、不十分なことは家族とも話し合いケアに反映している。</p>	<p>利用開始からも様子観察、コミュニケーションなどで困っていること、不安、悩み要望が解決できるように対応している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談、入居申し込み書、面談のとき家族の要望、不安などなるべく細心に聞き入れ、受け止める体制が成されている。</p>	<p>利用開始後も相談、要望などには対応できるように伝えている、面会に来られた時も話し合う機会をたくさん設けている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用につながらなくてもその方々に合う社会資源の利用などの案内、助言の体制はとっている。</p>	<p>地域の社会福祉協議会などと連携を取りながら取り組んでいるがまだ、実際のケースはない。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に必ず本人と家族がホームを見学され、今利用されている利用者、職員の様子を見てもらい、時間の制限はないが泊まり以外の体験をできるように対応している。</p>	<p>本人が来られないときは家族に十分見ていただき本人からの理解を得て利用開始になるようにしている。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりのこれまでの生活歴、経験、出来事を知り人格を尊重し、さりげない介護、分ち合い、ともにあるという関係を築いている。</p>	<p>人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような対応を大切に考え、「現実」を否定しない援助の中で職員は、学びに気付き職員間で話し合い向上を図るが職員全員が出来ている状態ではないため続けて取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族を支援する立場でありながら喜怒哀楽を共にし同じ気持ちで利用者を支えていける関係作りを築いている。		職員は家族が話しやすい雰囲気作りをして面会時の声かけなどで会話を多くするようにしている。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との家族との関係の理解、把握でよりよい関係を保てるように情報交換、様々な機会を提供している。		面会に来られないときは電話、電子メール、FAX、はがきなどを利用して利用者本人又は職員がこまめに情報交換をしている。外泊、外出も場合によっては勧めている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みのある場所、人々を大切にし、途切れない支援のため利用者本人、家族から情報を集めてケアに反映している。		馴染みの場所へ出かけたり、アルバムを見て話題作り、その場所の祭り、訃りなどを調べて忘れずに、又離れていても楽しく接することが出来るように支援していく。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係に常に配慮しながら必要に応じて助け合い、支えあいを促す声かけをしている。		家事を一緒にされることで会話が増え自然に仲間が出来ている。難聴、意思疎通が困難な利用者には仲介役をして他利用者と関わりを持てるように場面作りをしている。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も必要に応じて継続的に関わりを持てるように取り組んでいる。		まだ利用終了のケースがないため実績はない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>理念にも一人ひとりの本人本位のケアを大切にしていけることを盛り込んでおり日々行ったケアの振り返りを行っている。</p>	<p>現在の利用者の状態、人員で不可能なことも要望されるが状況に応じ実現可能に向けて取り組んでいきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの生活歴や馴染みの暮らし、利用までの経過などを把握して支援に反映している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の過ごし方は利用者一人ひとり違うことで利用者の意思、ペースを守りながら、変化を作るように、そのためには観察をしっかりしていく。</p>	<p>部屋、共用のスペースなど別れて過ごされても職員間で連携を取り部屋でお話をする、気分転換のため散歩に行くなど、その都度利用者と相談の上毎日の過ごし方に変化を作る。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の状態像、生活歴、ライフスタイルなど利用者や家族の求めていることを把握し、これによってアセスメントを行い課題を明らかにしている。</p>	<p>職員全員でバックグラウンド、日々の観察及び洞察を行い、面談時や面会時アセスメントを行いケアカンファレンスを行っている。しかし現在の状態では職員の観察力、洞察力を高めていくことも課題のひとつである。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を実行していく中で計画の問題点、利用者、家族の要望の変化があれば即カンファレンスを開き現状に合う介護計画書の作成をしている。</p>	<p>介護計画表に実施期間を明示しているが状態に変化があれば随時見直しをしている。部屋担当者が職員、利用者、家族からモニタリングを行っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため利用者一人ひとりの様子や変化を記録している。		正確な、分かりやすい情報の伝達のため勉強会をしているがまだ十分に機能していないため内外の研修をもっと強化していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望に合わせて柔軟に対応している。		現在は要望全部を実現できているとは言えないがこれから実現できるようにしていきたい。人員、勤務時間帯などの工夫が必要と思う。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で必要性に応じて協力していただけるように連携を取っている。		不定期的にボランティアの受け入れをしているが、民生委員は定期的に協力していただいている。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	課題が発生したときは対応できるようにしている		まだ事例がない。
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	課題が発生したときは対応できるようにしている		まだ事例がない。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に利用者、家族と相談して受診する医療機関を個別に決めている。		2週間に1回往診に来てもらっている、又受診の必要性があれば家族とその都度連絡を取りながら対応している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用前から受診された医療機関へ相談したり、必要時は診断、相談、治療を受けられるような体制を整えている。		認知症疾患センター等の受診を家族と話し合い相談している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームでは看護職がいないため介護職員が対応しているが医療的なことの発生時は法人病院の医師、看護師に相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人全体で早期退院に取り組んでおり、ホームでも医師、家族と相談して退院を調整している。		入院されて利用者の様子を病院と連携を取って把握、又職員がお見舞いに行き、様子を見て早期退院の目安など相談している。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時家族と話し合い必要時に再度正確な相談を出来るように取り組んでいる。		グループホームでのターミナルケアはとても困難なこともあるが家族、職員、専門家等相談の上利用者、家族の要望に応じていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ事例はないが、必要時に正確な「出来ること、出来ないこと」、チームとしての支援に取り組んでいきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>環境の変化のため起きる利用者へのダメージは十分話し合い、情報交換と別の居所へ移った後も必要に応じて支援していく体制をとっている。</p>		<p>居所の移り変わりだけではなくホームの中での環境の変化も職員と話し合っている。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念にも人格を尊重するケアを大切にしていることを盛り込んでおり日々行うケアの振り返りを行っている。</p>		<p>言葉使いを気をつけ、指示、命令は行わない。待つ姿勢を大切にしている。介護記録など個人情報には常に職員に認識できるように伝えている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の自己決定、希望を表したり出来るように言葉かけや雰囲気作りをしている。</p>		<p>職員の態度や雰囲気を利用者に伝わり利用者の表情、活動意欲に表れていると思うため、その人に応じた言葉かけやコミュニケーションの取り方を工夫している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースを大切に、希望に沿って支援していくようにしている。</p>		<p>全部を利用者様のペースに合わせることが出来ないこともあるが、その日不可能であれば日を変えなど利用者とは相談して進めていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個性、生活場面にあわせたその人らしい服装、おしゃれの支援をしている</p>		<p>美容室は2～3ヶ所利用して本人の気に入った店を選んでもらったり、外出、普段着など季節、気温によって相談の上決めている。適当でないときは話し合い援助するようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>すべての食事作りは行っていない。利用者の出来ることは共に行っており、職員も同じ食べ物を食べ共通の話題で楽しい食事が出るように援助している。</p>	<p>個別の祝いことは利用者と相談し、好みの食べ物を作ったり、会話の中で食べたいもの、昔懐かしいもの等の取り入れをしている。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用開始時利用者、家族と相談して個別の対応をしている。</p>	<p>利用者本人の希望であっても疾病的に困難なものは何度も話し合い分かっていただけのようにしているがなかなかスムーズに行われないうちが多い。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>失敗時は羞恥心やプライバシーに配慮し、オムツ、紙パンツなども出来るだけ使用せず排泄の自立に向けて取り組んでいる。</p>	<p>オムツ、紙パンツパット使用の利用者が布パンツで過ごされるようになった方もいる、排泄の自立を大切に捉え続けて取り組んでいく。職員間の話し合いがとても大きな役割にもなっている。(方法、工夫等の意見が)</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>健康状態に留意しバイタルチェックを行い、一人ひとりの希望にあわせた入浴の支援を行っている。入浴の援助は不安、羞恥心プライバシーに配慮した援助で進めている。</p>	<p>毎日利用者本人に確認して入浴の時間、長さ、着替えなどを希望に応じて対応している。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンを把握し眠れない方には本人と相談したり、職員間話し合い、対策をとっている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>これまでの生活環境の中で培ってきた仕事や役割など担って貰っている。また得意なもの、趣味など主役になれる場面づくりを支援している。</p>	<p>テレビ番組、新聞読み、スケッチ、ゴルフ、洋裁、カラオケなど職員主導の役や楽しみにならず利用者が心から楽しみや張り合いが見い出せるような働きかけがもっと必要である。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つこと、使うことの大切さを話し合い利用者の希望や力量に応じた支援を行っている。		なるべく利用者本人に管理していただき買い物、美容室などの支払いを行う。困難な方はホームで預かっている。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	皆で又小人数、1対1の外出をしている。その日の利用者の希望があれば時間の調整などをして外出の援助を行っている。希望がなくても外出の機会を作り利用者と相談の上外出をしている。		ご自宅、友人の家など訪問、散歩や買い物など本人の希望があれば積極的に支援している
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望を家族に伝え、協力を得ることで実現できるよう支援している。		お盆、お正月、遠足、花見、温泉旅行など実現できたこともあるが開設1年未満であり、これから機会をたくさん設けていきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、FAX等は自由に使用して頂いてる。手紙、葉書等も自由に出されるようにしている。		手紙、葉書を定期的に出されたり、職員が勤めて出される方もいる。返事を待つことも楽しみの一つとして取り入れている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は開放しているため面会の時間制限はない。挨拶や日常の様子など気軽に話し合えるように考えて対応している。		面会時間が食事時間と重なるときは部屋で一緒に食事をされるときもある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より拘束を行わないケアの実践をうたっている。職員も拘束はしないという考え方で取り組んでいる。		ベッド柵などの使用を拘束か利用者が行動しやすくするためかを考えると迷いが出てくる。行動の制限、言葉での制限なども考えながら援助している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に外出は自由であり玄関は日中開放している。見守りが必要な利用者には外出を察知し、職員の付き添いを徹底している。		夜明け出られ怪我をされた事もあるため掃きだし窓は15センチ開放の施錠をしているが掛けっぱなしではなく様子を見ながら開放している。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋、リビングなど別れて過ごされている場合、職員間で連携して確認し合っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員全員で注意の必要な物品については統一した認識を持って十分気をつけて管理している。		特に服薬時の薬、刃物などは利用者の目につきやすく常にもとの場所に戻す習慣付けをしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成しカンファレンスを開き話し合い再発防止を心かけている。ヒヤリ・ハットも報告、申し送りなどを正確にし、事故につながらないように取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応が職員全員できるとは言えないが類似した事態が生じた時を利用するなど折に触れ話しあっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対応策のマニュアルを作成している途中であるが防災訓練を消防署員から指導してもらい対応について学んでいる。		買い物、散歩などを利用し、地域の災害時避難できる場所の確認、地域の方々と日頃から協力を得られるように働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入院先、入所先の関係者と家族で交え十分に話し合い受け入れの体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	観察を丁寧に行い体調に変化があれば職員同士で情報を共有し必要な状態には受診を行う、また家族との連絡を密にして記録にも残す。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し、誤薬や飲み忘れがないようにしている。往診時主治医に副作用等について相談し症状の変化について報告し指示を仰いでいる。		服薬時は必ずお名前、日付、時間などを職員同士声を出し確認しあっている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	掃除、洗濯等家事に参加してもらい体を動かす、また散歩や運動に参加して頂く等自然の排便を心かけている。		確認が困難な方や排便があまりない方は主治医に相談し対応している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床、就寝、毎食後声かけ、見守り、口腔内のチェックを行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってメニューが決まり、毎日食事摂取量、水分量などの記録をしている。		義歯がない、噛みにくい、むせる、好みなどを調べ栄養管理に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。		感染マニュアルが職員全員に周知されていないこともあり勉強会などを開く機会を増やしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の日付確認、調理時の指示書の温度確認、調理時の手洗い、消毒等を徹底的にしている。		残った食材はその日に処分している。職員も同じものを食べているため食材等の変化に気がつきやすい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は開放しているため面会の時間制限はない。挨拶や日常の様子など気軽に話し合えるように考えて対応している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節感、自然の光、テレビの音、などに気を配り、居心地の良い空間にしている。玄関などは靴の履き替えなどに使用できるようにイスを置く。		異食行為がある利用者のため季節の花、飾り等は現在はおかないようにしているが徐々に飾っていくように工夫をする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、盛り付け台、リビングなど利用者同士その時々に応じ利用される。		ティータイム以外でもお茶、茶菓子等を準備してもっと楽しい会話、時間になるように援助している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、生活用品、趣味の品々等で居心地のよい部屋にと家族に折にふれお願いしている。		施設を転々とする中で多くの馴染みの品々が処分されている現実があるが、昔の生活空間を思い出してもらいホットできるような部屋作りを一緒に考えていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に室内温度に気を配り、換気、臭い、等利用者が気持ちよく過ごされるようにしている。		室内温度等は職員の感覚ではなく利用者の立場で確認しながら援助している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ、浴室、台所など利用者が状態に合わせて使用できるように手すり、イス、流し台などを工夫している。		バリアフリーの長点、使いにくさの中で自然なりハビリになるように考えていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	整理整頓を心かけ、誤認や錯覚を引き起こさない、余分な物を置かない等環境に配慮する。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	塀がないため玄関を出るとすぐ近隣の方と話が出来、いろんなお店が近くにあるため買い物目的だけではなく気分転換にも活用している。		中庭に畑、花作りをし、庭にベンチ、イスを置いて団らんの時間を増やしていきたい。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



.サービスの成果に関する項目 椿 (1F)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

室内での体操、趣味活動なども大切であるが、出来るだけ外の空気にふれ、皮膚の感覚を鍛えたい。  
また、毎日の変化のある景色の中で季節、時間の流れ、空の変化などを知って頂きたい。  
散歩、外出の短い時間でも職員と分ち合える一番の時間にしたい。